最終更新日（2024 年 10 月 18 日）

界 長門

（山口県・長門湯本温泉）

～藩主の御茶屋屋敷～

長門湯本温泉は、江戸時代に歴代の藩主が湯治に訪れていた場所です。温泉街を流れる音信川（おとずれがわ）佇む「界 長門」は、藩主が参勤交代の時に休む場所「本陣」として使われた「御茶屋屋敷」をテーマにし、武家文化を体現しました。コンセプトは「藩主の御茶屋屋敷」。客室には山口の代表的な伝統工芸、萩焼・大内塗り・萩ガラスなどがあしらわれ、ロビーには、客を迎えるための床の間の掛け軸や、床の間飾りを表現した空間が広がります。また、長門湯本温泉街再生に向けた取り組み、「長門湯本温泉観光まちづくり計画」の一環で開業した本施設には、宿泊者以外の方も利用できる「あけぼのカフェ」や、宿泊者が気軽に温泉街に出ることができる「あけぼの門」を備えています。

客室：ご当地部屋「長門五彩の間」

山口県の武家文化を生かした客室は、藩主が休む寝台をイメージして造りました。寝台が一段高くなっており、格子状の囲いは高貴な雰囲気が漂います。「五彩」とは、客室を彩る５つの要素、山口県の伝統工芸「徳地和紙」「萩焼」「萩ガラス」「大内塗」、「窓から見える四季折々の景色」を表現しています。

徳地和紙

室町時代より800年以上も続き、山口市の無形文化財に指定されている「徳地和紙」をベッドボードに使用。寝台が華やかになるような、色合いに染められた和紙を設えています。徳地和紙は江戸時代、藩の重要な輸出品の一つとして使われていました。現在わずか数戸しか残っておらず、山口市の無形文化財に指定されています。

萩焼

段違いの棚が設置された床の間には、長門湯本温泉からほど近い深川窯の三人の作家（坂倉 正紘氏・田原崇雄氏・坂倉 善右衛門氏）による萩焼の作品を配しています。萩焼は、土の風合いを生かした素朴な作風のものが多く、絵付けなどの装飾はほとんどされないのが一般的ですが、界 長門の客室やロビーの作品は、萩焼本来のあたたかさを生かしつつ、新しさを感じられる作品を配しています。

坂倉 正紘 作

田原 崇雄 作

坂倉 善右衛門 作

萩ガラス

モスグリーンの色合いと、硬くて傷つきにくく、熱にも強い特徴を持つ「萩ガラス」。客室入口のサインにあしらい、やわらかい光で宿泊者を迎えます。

大内塗

優雅な絵模様が特徴の山口県の伝統工芸品の大内塗り。夫婦円満の象徴とも言われる対の人形は、美しい漆塗りと金箔を使った「箔絵（はくえ）」が特徴です。

窓から見える四季折々の景色

客室の窓からは、音信川沿いに咲く春の桜や、紅葉で色づく秋の山々など、四季折々の景色を楽しめます。それぞれの客室から眺める景色とともに、近くを流れる音信川の音に耳を傾ければ、心が安らぐ滞在が叶います。

温泉：藩主を癒した温泉でくつろぐ

山口県最古の温泉「長門湯本温泉」は、藩主が湯治に訪れた場所と言われています。この藩主を癒やした湯は、アルカリ成分が強く（pH9.9）、化粧水のような成分の泉質が特徴です。湯温が高い「あつ湯」と源泉かけ流しの「ぬる湯」がある内風呂と、露天風呂を備えています。

泉質：アルカリ性単純温泉
概要：内風呂「ぬる湯（源泉かけ流し）」、「あつ湯」、露天風呂

食事：旬の食材で彩る季節の会席

プライベートが保てる半個室の食事処で、地域ならではの旬の食材をいかした会席料理を、意匠を凝らした器とともに楽しめます。山口県はイカの摂取量が全国第二位を誇り、甘みが強く肉厚で柔らかいイカを先付やお造りで提供します。また、酢の物・八寸・お造りを一緒に盛り合わせた華やかな「宝楽盛り」は、萩焼の器と桶を使いました。桶は、山口県内で唯一の桶職人であり、公益社団法人国土緑化推進機構が定める「森の名手・名人」に選定された坂村 晃氏により制作されたものです。 また、特別会席には山口県の名産品であるふぐや鶏肉をメインとした会席料理を提供します。春夏は、瓦をモチーフにした陶板にて牛肉、鶏肉、旬の野菜を焼き、最後に「ゆずきち」を絞り爽やかな味わいを楽しめる「瓦焼き」。お好みでゆずきち胡椒や、醤油麹など 5 種類の薬味をつけて味わうのがおすすめです。また、秋冬の「てっさと源平鍋で味わうふく会席」では、ふぐのお造り（てっさ）をはじめ、から揚げ、ふぐと牛肉を味わう源平鍋など、ふぐを味わい尽くすことができます。

先付「烏賊の二色和え　生うに添え」

春夏「牛と旬菜の瓦焼き」

秋冬「てっさと源平鍋で味わうふく会席」

ご当地楽（とうちがく）：おとなの墨あそび

山口県の伝統工芸「赤間硯」で墨をすり、芳香を感じ、墨の良さを実際に体験し、扇形の型紙に自身の思いを綴ります。江戸時代には参勤交代の時に使う献上品として赤間硯が使われており、原料となる採石用の山は藩主の命があった時のみ採掘がおこなわれていました。このように、長州藩の名産として簡単に手に入れることができない硯は、松下村塾の師である吉田松陰も愛用したといわれています（＊）。粒子が細かいため、よく墨をすり、発色や伸びが良い墨汁を得ることができる赤間硯。現存する職人はわずか 3 名と、非常に希少な本物の硯に触れる体験です。

（＊）山口県公式ホームページより

街歩き：宿泊者以外も利用できる「あけぼのカフェ」

界 長門は「長門湯本温泉観光まちづくり計画」で掲げる、魅力的な温泉街の一部になることを目指しています。「温泉街そぞろ歩き」を楽しめるコンテンツの一つとして、界ブランドで初めて宿泊者以外の方も利用できる「あけぼのカフェ」を併設しています。このカフェでは、山口県らしさを感じていただける「ゆずきち」や「夏みかん」のジャムを使った「どらやき」を販売しており、甘さの中にほのかな酸味を感じる味わいのどらやきとともに、温泉街のそぞろ歩きを楽しめます。

「長門湯本温泉観光まちづくり計画」とは

長門湯本温泉は古くから毛利藩の藩主が湯治場として訪れる歴史のある温泉地であり、高度経済成長時代には、約 40 万人もの旅行客が訪れる温泉街として栄えてきました。しかし、近年の旅行スタイルの変遷とともに温泉街の旅行客は、2014 年には約 20 万人まで減少しました。そこで長門市が主体となり、2014 年より温泉街の再生に向けた取り組みがスタートしました。2016 年 1 月には、星野リゾートが「長門湯本温泉マスタープラン」の策定を受託し、以後、温泉旅館ブランド「界」の進出を含め、これまで地域・民間・公共が連携した温泉街再生に向けた取り組みを進めています。

「全国温泉地ランキング TOP10」入りをするための戦略として当社が策定した基本方針は、全国の温泉地を分析したうえで「自然を生かした魅力的な温泉街を持つ温泉地」を目指すこと。このためには、長門湯本の地形や観光資源などで魅力的な温泉街に必要な 6 つの要素「外湯」「食べ歩き」「文化体験」「回遊性」「絵になる場所」「休む佇む空間」を表現し、土地の魅力を最大化できるようなリノベーションを提案しました。温泉旅館「界 長門」の着工計画以外にも様々な取り組みが行われ、2020 年 3 月には第一工事が終了しました。
（参考：https://hoshinoresorts.com/jp/aboutus/sdgs/posts/nagatoyumotoonsen/）

界 長門　（山口県・長門湯本温泉）

江戸時代、歴代の藩主もたびたび湯治に訪れていた長門湯本温泉。本陣として使われた御茶屋屋敷のイメージと、現代の建築を融合した造りが特徴です。地元の文化をたっぷりとあしらった設えの中で、美肌の湯と新しい雅を堪能できます。

所在地　：〒759-4103　山口県長門市深川湯本 2229-1
電話　　：050-3134-8092（界予約センター）
客室数　：40 室　　チェックイン：15:00　／　チェックアウト：12:00
料金　　：1 泊 32,000 円～（2 名 1 室利用時 1 名あたり、サービス料・税込、夕朝食付）
アクセス：JR 新山口駅より車で約 60 分、山口宇部空港より車で約 70 分
URL　　：https://hoshinoresorts.com/ja/hotels/kainagato/

界 KAI 長門

本リリースに関する報道関係からのお問合せ先
星野リゾート 広報　TEL 03-5159-6323／FAX 03-6368-6853／E-mail pr-info@hoshinoresorts.com